

■道徳科の目標

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

■道徳科の特質に応じた見方・考え方

様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで広い視野から多面的・多角的に捉え、人間としての生き方について考えること。

■高知県が目指す授業づくりのコンセプト

○道徳科における「学びを変える」授業づくりとは

道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲と態度を養うことであり、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を高めるようにすることです。そのためには、道徳科の目標を十分に理解して、教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話合いなどに終始することのないように特に留意することが大切です。

○道徳科における「学びをつなげる」授業づくりとは

これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、多様な感じ方や考え方に接する中で、更に考えを深めていくことです。そのためには、他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体を目的とせず、「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考え、道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深める学習などが大切です。

○道徳科における「学びを高める」授業づくりとは

答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」の実現です。そのためには、問題意識をもつこと、自分との関わりで捉えて考えること、広い視野から多面的・多角的に考えること、自らを振り返ること、人間としての生き方についての考えを深めることがポイントです。

■道徳科の特質に応じて、効果的な学習展開ができるように配慮すべき内容

○生徒が自ら考え理解し、主体的に学習に取り組む工夫

道徳科の学習では、生徒自身が人生の課題や目標と向き合い、道徳的価値を視点に自らの人生を振り返り、これからの自己の生き方を主体的に判断するとともに、人間としての生き方について理解を深めることができるよう支援することが大切です。

○新しい見方や考え方を生み出すための留意点

道徳科における言語活動では、集団の中で考えを伝え合うことを通じて、いろいろなものの見方や考え方があることに気づき、考えの根拠や前提条件の違い、特徴などを捉え、自分の考えを多面的・多角的な視点から振り返って考えることや、互いの考えの異同を整理して、自分の考えになかったものを受け入れて自分の考えに生かしたり、相手の立場や考えを考慮し尊重したりすることで、新しい見方や考え方を生み出すことが重要です。

○問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導

生徒の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫することが重要です。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすることが大切です。また、特別活動等における多様な実践活動や体験活動を道徳科の授業に生かすことも必要です。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、自己を見つめ、人間としての生き方についての考えを深めようとする態度。

知識及び技能

道徳的諸価値について理解すること。

思考力、判断力、表現力等

物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深めること。

自己を見つめるとは
自分との関わり、つまりこれまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方や照らし合わせながら内省すること。

多面的・多角的に考えるとは
道徳的諸価値の多面性に着目させ、それを手掛かりに考察させて、様々な角度から総合的に考察することの大切さや、いかに生きるかについて主体的に考える大切さに気付かせること。

道徳性を養うために行う道徳科における学習 道徳教育・道徳科で育てることを目指す 資質・能力



道徳的諸価値とは
よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるもの

人間としての生き方についての考えを深めるとは
人間についての深い理解と、行為の主体としての自己を深く見つめることとの接点に、生き方についての深い自覚が生まれ、主体的な判断に基づく適切な行為の選択や、よりよく生きていくこと

《個々の生徒の状況に応じた配慮》

- ◇考えをもつことが苦手な生徒
ノートに自分の考えをまとめさせる。感じたこと、思ったことを自由に書くのが難しい生徒には、「〇〇について」や「このときの気持ちについて」とポイントを絞った言葉がけをする。
- ◇人前で発言することが苦手な生徒
考えを書いたノートを基に発言させる。ペア→小グループ→全体と関わる人数を少しずつ増やしていく。

《他の教育活動等との関連》

- 【特別活動】 ・学級活動（3）一人一人のキャリア形成と自己実現
- 【保健体育】 ・球技

内容項目の系統

	低学年	中学年	高学年	中学校
内容項目	希望と勇気、努力と強い意志			希望と勇気、克己と強い意志
指導の要点	自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。	自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。	より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけず努力して物事をやり抜くこと。	より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。
	やり遂げたときの喜びや充実感を味わい、努力した自分に気付くことができるようにする。	目標を立て、あきらめずに粘り強くやり抜く強い意志が必要であることや苦しくて途中であきらめてしまう人間の弱さ、今よりよくなりたいという願い、努力しようとする姿について考えが深まるようにする。	苦しくてもくじけずに努力して物事をやり抜き、失敗を重ねながら夢を実現した人に触れ、希望をもつことの大切さや希望をもつが故に直面する困難を乗り越える人間の強さについて考えることを通して、児童の中に積極的に前向きな自己像が形成されるようにする。	◆目標達成には何が必要かを考えたり、自らの歩みを自己評価させたり、困難や失敗を乗り越える自分なりの方法について考えさせる。 ◆様々な人の生き方に学びながら、生涯をかけての理想や目標をもち、困難や失敗を乗り越えて挑戦し続けることが、日々の生活を充実することにつながるともに、文化や社会の発展を支える力ともなってきたことに気付かせる。

資質・能力を身に付けるための道徳科の学習活動例

【主題名】 夢をもち、目標を達成するために
【ねらい】 栄光と挫折、頂点とどん底を知るカズの姿から、常にチャレンジすることの大切さに気付き、困難や失敗を受け止めて希望と勇気を失わない前向きな姿勢をもち、目標に向かって努力し続けようとする心情を育てる。

【教材名】 「キング」と呼ばれる理由—三浦 和良—（廣済堂あかつき）

教材の概要

三浦和良、通称「カズ」。のちに「キング」と呼ばれるサッカー選手の挑戦は、15歳でブラジルに渡ったときから始まる。夢をもって渡ったブラジルでは厳しい現実と直面する。ひたむきに必死にボールを追いかけ、練習に次ぐ練習を積み重ねることで、ついに「サントスFC」から声がかかりプロチームの一員となる。その後も様々な試練を乗り越え、ついにブラジルプロチームでの日本人初ゴールを決める。そして、日本に帰国したカズは日本のエースとしてサッカー界を背負い、ワールドカップ出場という夢に立ち向かう。出場まであと一歩というところでの敗戦、代表からの落選。しかし、ここからが本当の自分の人生だと50歳を過ぎてなおピッチを駆けている。

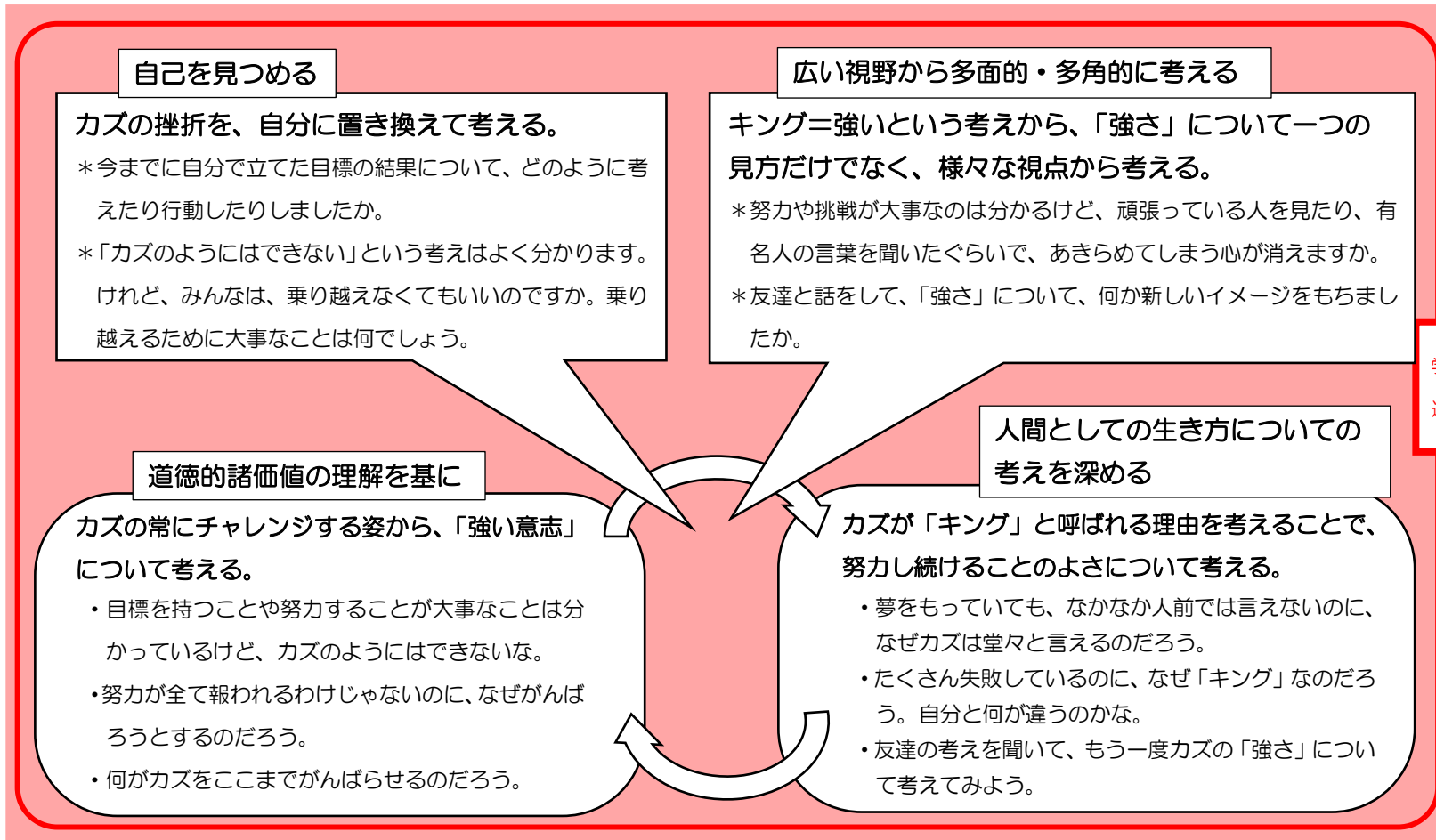
見方・考え方を働かせる子供の姿の例

- ・前例のない挑戦を続けるカズの生き方を支えるものは何かという議論を通して、困難や失敗を乗り越えて努力し続けることよさについて多面的・多角的に捉えようとしている姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

- ・目標達成に向けて努力した経験を想起させ、カズの生き方に「賛成できるか」「賛成できないか」を問い、その理由を自分の体験と比較して答えることができるようにする。
- ・ペアやグループでの話し合いの時間をとり、考えたことを伝え合わせることで、自分と違った考えを知ったり、友達の考えから新たな考えをもてたりできるようにする。
- ・巻末にあるカズの言葉とともに、その他の有名人の言葉を紹介することで、目標を達成しようとしている時の自分自身を振り返って自分に必要なことを考えることができるようにする。

道徳性を養うために行う道徳科における学習



道徳性

- ・あきらめずに努力することが大切。そうすることで自分自身の目標を達成しようと頑張る気持ちもてる。
- ・失敗を恐れるのではなく、たくさん失敗した方が壁を乗り越えるための力が付く。
- ・「やろう」という気持ちや、自分を信じることが大事。自分自身で踏み出す勇気が大切。